



機械科 3年A組 仁平菜月 新聞掲載 記事。

くろーず あつぷ

「出場するからには優勝するつもりで臨みましたが、実際に最優秀となり、まだ信じられない感じです」

4月24日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた「第1回関東甲信越高校生溶接コンクール」で、数多くの男子生徒を相手に堂々の優勝となる最優秀賞に輝いた。溶接技術向上を目指して工業高校の生徒を対象にした初の大規模なコンテストで、1都9県から22選手が出場。仁平さんは茨城代表として指名された下館工業高校機械科3年生唯一の女子生徒。授業を担当する高橋道明教諭が「多方面で活躍する彼女なら、やってくれるだろう」と思ったと、抜擢した。

その期待に見事応え、「女子だから負けるとは限らない

■高校生溶接コンクールで最優秀賞

仁平菜月さん



「作品」を手に「夢は技能五輪の日本代表」と語る仁平菜月さん。筑西市玉戸の県立下館工業高校

男子に劣らぬ機械好き

し」と、自ら手を挙げただけあって、代表選手としてのプレッシャーをみじんも感じさせない強気ぶりをみせた。競技は厚さ9mmの2枚の鉄板を溶接して20mm×25mmの1枚の鉄板にするという作業。制限時間は30分だったが、半分の15分で作業は終了。残りの時間はひたすら、磨きに専念した。「これが勝因となりました」という通り、仕上げの部門で20点満点となり、トータル100点中99点という高得点をたたき出したの、初代チャンプ。出場が決まっただけから3カ月間、放課後3時間の特訓に

加え、春休みも返上して学校に通って腕を磨いた。

その姿には「顔をすすだけにして、まるで全国大会を目指す運動部の選手のように」と、指導した高橋教諭もその頑張りぶりには脱帽した。

工業高校への進学のことからは中学生のときに見学したつくば市でのロボットコンテスト。会場のデモンストレーションで、指導を受けながら一般参加者として旋盤のハンドルを握った。

「金属をミリ単位で削り出す作業に魅せられました」と笑顔を見せながら語る志望動機は、男子生徒に劣らない機械好きの顔を見せる。

当然、機械科の実習も大好き。「図面通りに精密な工作物に仕上げるのが楽しくてしようがない」という。

将来の夢は、世界各国で開催される技能五輪への出場。「選手を送り出すような企業に勤めたい」。これからの目標もはっきりとしている。

(田中千裕)